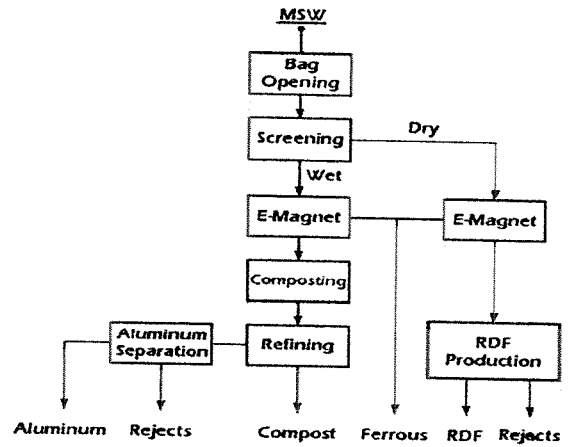


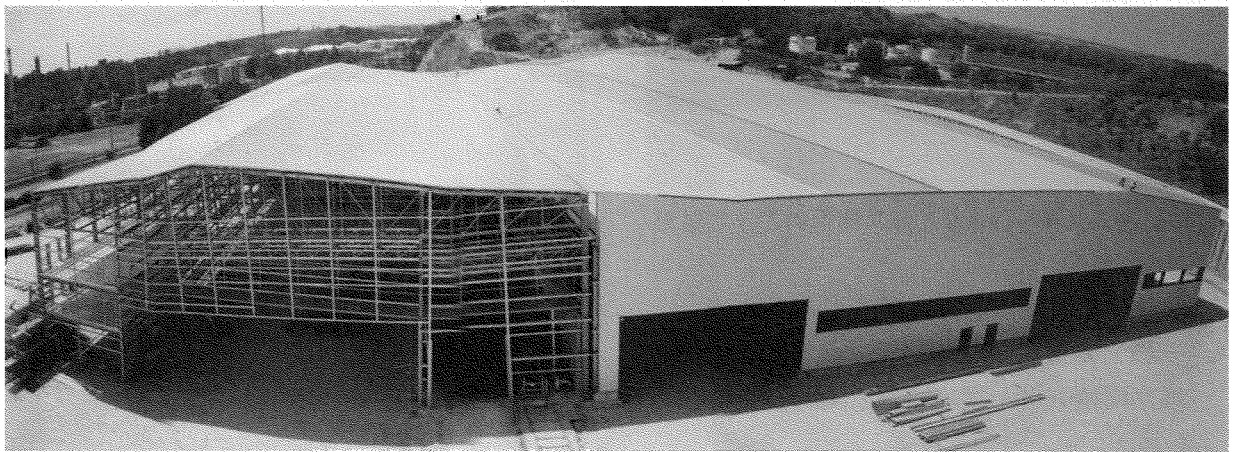


生物脱臭

ローマ- E.GIOVI Srl



コンポスト、RDF 処理フロー



建設中の施設

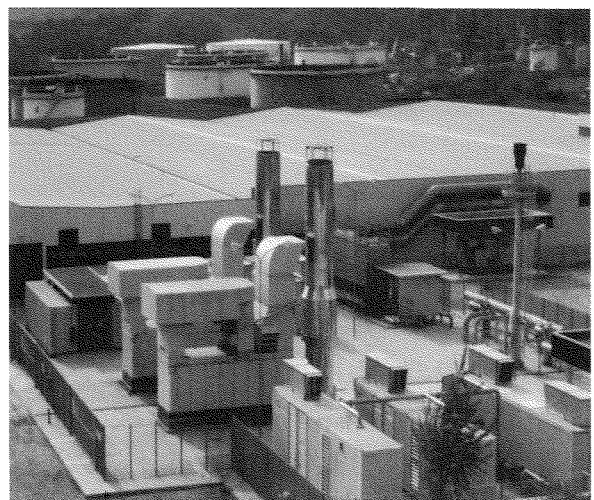
4) メタンガス発電

埋立処分場から発生したガスを、2,000本のガス井戸から集められている。視察当時のガス組成はメタン56.8%、二酸化炭素41.2%、酸素0.0%で圧力68 mbarであった。集められたガスは洗浄され発電施設へ送られる。発電施設へ送られるガスの組成は、メタン98.4%、二酸化炭素0.4%、酸素0.1%で圧力67 barであった。

ガス発電は、ガスエンジンが9台とガスタービンが3台あり、ガスエンジンでは1台あたり1MW、ガスタービンでは1~2MW/台の発電を行っているとのことである。発電した電力は、国のエネル社に売電している。

現地では、ガスタービンを視察した。

ガスエンジンは50,000時間運転していること、メンテナンスが面倒なことからガスタービンに更新するという話であった。



ガスタービン発電施設

3. 所感

ギリシャでもそうであったが、本施設も建設資材の採集跡地を利用した施設であり、広大な敷地に無造作に各施設を建設しているような感覚をもってしまった。欧州の建築物は、石材やレンガを使用しており、昔からこういう跡地がごみ捨て場として利用されてきたのであろうか。

EUはリサイクルを推進しており、ローマでも分別、リサイクルを進めておりごみ箱も3種類あるが、市民の意識が低く、実態は分別

はされていないということであった。

イタリアでは年間6400万トンの都市ごみが発生し、本施設と同様の施設が国内に15ヶ所、ローマ近郊に4ヶ所あるとの話であった。

先方の担当者がISWAに出席されるということで、駆け足の視察であったのは残念であった。

(調査担当：石川貞仁、堀上幸二、藪本正人、石倭行人、大山智司、村河善信、山岡亮一、横山道夫)